

4月26日(水)、本誌 第4回 優秀論文賞・優秀編集賞の表彰式をオンライン形式にて行いました。表彰式では、このたび優秀論文賞を受賞されました井本勝治先生、優秀編集賞を受賞されました久保田一徳先生へ、『臨床画像』アワード選考委員会より記念盾を贈呈させていただきました。

『臨床画像』優秀論文賞

「小腸閉塞、外ヘルニアの画像診断」

井本勝治 先生 (公立甲賀病院 放射線診断科)

[2022年12月号 (Vol.38, No.12) 特集1「腸閉塞・イレウスの画像診断ガイドブック」に掲載]

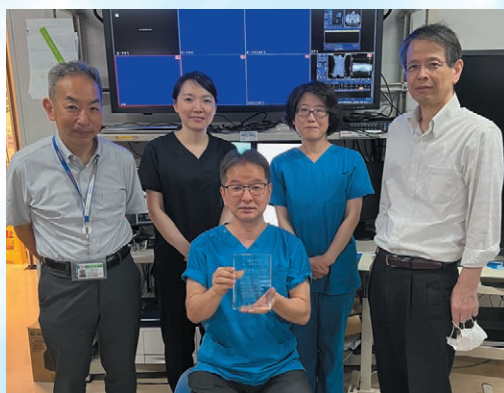
このたびは、『臨床画像』第4回アワード優秀論文賞に選出していただき、誠にありがとうございます。

ややこしい病気は直ぐに大病院に送られるような田舎病院で長年、勤務してきました。

腸閉塞や外ヘルニアなどの急性腹症は大病院と同じか、それ以上の頻度でやってきます。

難病の診断に忙殺されることなく、ありふれた病気にじっくりと時間をかけて取り組めたのが今回の受賞につながったと考えています。

このような私に貴重な執筆の機会を与えてくださった谷掛雅人先生をはじめ、今まで本稿執筆に関与していただいた多くの先生に心から感謝いたします。



『臨床画像』優秀編集賞

特集「やさしくRADSを学ぶ-RADSを理解し、診療に生かす-」

久保田一徳 先生 (獨協医科大学埼玉医療センター 放射線科)

[2022年1月号 (Vol.38, No.1)]

このたび企画・編集させていただいた2022年1月号の特集「やさしくRADSを学ぶ-RADSを理解し、診療に生かす-」が優秀編集賞を受賞したことに、心から感謝申し上げます。日常の読影ではBI-RADSやPI-RADSなど取り入れやすいものも、日本での診療では用いにくい疾患の理解を深めるのに重要なものもあります。優れた執筆者の先生方のご協力と編集関連の皆様の尽力により、幅広くRADSを理解することができる場を設けられたことは、私にとっても大きな勉強となり、改めてお礼申し上げます。ずっしりと重い表彰盾を手にし、よりいっそうの精進を重ねなければと思います。



2023年度も、1年間に本誌に掲載された優秀な論文および特集を表彰するアワードを予定いたしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。